

兵庫県立東播磨高等学校 令和7年度 学校評価報告書

資料-1

3 学校評価 (生徒・保護者 アンケート結果)

1 学校教育方針

第3期「ひょうご教育創造プラン」で掲げられている「未来への道を切り拓く力」の育成に取り組むとともに、人間力を高め、こころ豊かで自立する人づくりを目指す。また、時代の変化にいち早く対応できる学校として、地域に信頼され、誇りとされる学校を目指す。

2 重点目標

- (1) 生徒・保護者・地域に信頼される「安全で安心な学校づくり」を推進する。
- (2) 確かな学力の育成と希望進路実現を目指す。
- (3) 「探究学習」を推進し、これからの時代を逞しく生きていく生徒を育てる。
- (4) ICT化を進め、新しい学校運営を推進する。
- (5) 広報活動を積極的に展開し、適切な情報発信により学校の魅力を伝える。
- (6) 学校の組織力を高めるとともに、健康で働きがいのある職場づくりを推進する。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

webでの調査を回答率も高いのは評価できる。昨年度との比較や改善点を明記されており、改善している箇所も見られる。生徒の評価が上がっているが、保護者で下がる項目がある。項目によっては、表現の仕方を工夫してもよいのではないかと。

5 総合的な学校関係者評価

【1】自転車の厳罰化を前に生徒への周知がおこなわれている。【3】予習・復習は何を指しているのか、低い評価が気になる。【5】対外的に良い評価をもらっている。家庭とのギャップがみられる。【7・キャリア支援・学年】指導方針が変わっていないが、結果が出ている。生徒の頑張りもあるが、教員の連携もよく取れているのではないかと。【16】入学してよかったと感じる生徒が多い。引き気づき生徒の力を高める指導に取り組んでもらいたい。

3 学校評価 (生徒・保護者 アンケート結果)

項目	内容	生徒								保護者								差 生徒-保護者 (%)	結果及び改善の方策
		割合 (%)				令和7年度		令和6年度		割合 (%)				令和7年度		令和6年度			
		評価4	評価3	評価2	評価1	評価平均	評価	評価平均	評価	評価4	評価3	評価2	評価1	評価平均	評価	評価平均	評価		
1	学校安全(交通ルール、生活安全、防災)を意識して学校生活を送っている。	39.7	57.9	2.3	0.2	3.37	A	3.37	A	19.4	73.9	6.7	0.0	3.13	B	3.22	B	0.24	項目1・5において、生徒は交通ルールや生活安全、防災を意識して学校生活を送っており、規範意識や基本的な生活習慣が身についている。引き続き現在の取組を継続し、安全意識の定着を図り、安心・安全な学校生活を継続していく。 項目2・3において、文武両道を実践しようとする生徒は多いが、両立の難しさも見られ、学習習慣の定着に課題がある。進路など学習目標を明確にさせ、日々の学習の重要性を意識させていく。 項目4・8・9について、授業や探究学習に意欲的に取り組む生徒が大半である。学校行事においても同様に積極的な参加がみられる。今後も生徒の主体性向上につとめていく。 項目14について、広報部を中心にホームページ等での情報発信が評価されている。今後もPDCAを意識し、情報発信の質とタイミングの向上を図る。 項目16について、入学して良かったと思う生徒割合は高い。保護者も昨年度より低くなっているが、以前高い割合である。今後も満足度向上を目指し、各学年・各部署が連携して教育活動の改善に取り組んでいく。
2	勉強と部活動の両立ができています。	17.4	51.9	24.1	6.5	2.80	B	2.67	C	12.8	52.8	29.6	4.9	2.73	B	2.82	B	0.07	
3	予習・復習などの学習習慣が身についている。	9.0	42.5	42.1	6.4	2.54	C	2.39	C	6.1	43.8	42.0	8.1	2.48	C	2.55	C	0.06	
4	日々の授業に意欲的に取り組み、探究学習や成果発表に進んで参加できている。	16.3	68.9	13.4	1.4	3.00	B	2.93	B	9.0	59.7	30.1	1.2	2.77	B	2.83	B	0.24	
5	挨拶や規則、ルールを守って学校生活を送っている。	56.3	42.6	1.1	0.0	3.55	A	3.52	A	11.0	78.6	10.1	0.3	3.00	B	2.97	B	0.55	
6	自分の進路について、情報を得ることができています。	24.9	56.8	17.4	0.9	3.06	B	3.05	B	11.0	73.3	15.1	0.6	2.95	B	2.86	B	0.11	
7	進路ガイダンスや進路ホームルームを通じて、自分の進路を考えている。	27.8	55.5	15.6	1.1	3.10	B	3.09	B	9.3	71.6	18.8	0.3	2.90	B	2.81	B	0.20	
8	学校行事全般において、積極的に参加・協力している。	44.0	50.7	4.7	0.6	3.38	A	3.30	A	10.7	66.4	22.9	0.0	2.88	B	2.82	B	0.50	
9	「個人の尊厳」を念頭に、人権ホームルーム等を通じて、人権意識を高めている。	35.6	61.1	3.1	0.2	3.32	A	3.23	B	8.7	74.8	16.5	0.0	2.92	B	2.85	B	0.40	
10	いじめアンケートを実施し、いじめの未然防止と早期発見・早期解決に向けて取り組んでいる。	36.4	56.9	6.4	0.3	3.29	B	3.23	B	4.6	76.5	18.6	0.3	2.86	B	2.80	B	0.44	
11	ICT機器を活用した、わかりやすい授業が行われている。	32.7	60.2	6.4	0.8	3.25	B	3.19	B	9.3	76.2	14.2	0.3	2.94	B	2.95	B	0.30	
12	清掃・美化活動などを中心に、環境美化に力を入れている。	26.6	63.8	9.5	0.2	3.17	B	3.04	B	5.5	73.0	21.4	0.0	2.84	B	2.83	B	0.33	
13	本校の教員は個人面談等で相談や悩み事に適切に対応している。	27.7	65.6	5.6	1.1	3.20	B	3.15	B	10.7	70.4	18.3	0.6	2.91	B	2.81	B	0.29	
14	本校はホームページでの情報発信が充分に行われている。	16.6	63.5	17.7	2.2	2.95	B	2.93	B	6.1	63.2	27.8	2.9	2.72	C	2.70	C	0.22	
15	本校は、熱中症対策や感染症予防対策に基づいた学校活動を実践している。	26.1	61.1	11.7	1.1	3.12	B	3.10	B	6.7	72.8	18.8	1.7	2.84	B	2.83	B	0.28	
16	本校に入学して良かった。	35.0	57.9	5.9	1.2	3.27	B	3.20	B	33.9	58.8	6.7	0.6	3.26	B	3.30	A	0.01	

学校評価 (教職員 アンケート結果) ①

資料-2 (1)

<評価基準> 4・・・とてもそう思う 3・・・そう思う 2・・・あまりそう思わない 1・・・まったくそう思わない

<評価> A・・・3.3以上 B・・・2.8以上 C・・・2.3以上 D・・・2.3未満

		割合 (%)				令和7年度		令和6年度		結果分析	改善方策
		評価4	評価3	評価2	評価1	評価平均	評価	評価平均	評価		
1	行事計画の立案と連絡調整の徹底に努める。	12.9	74.2	12.9	0.0	2.94	B	2.88	B	・各部所や各学年が計画する行事が例年通りスムーズに行われた。	・より一層、見直しをもった行事計画の立案と各部・各学年との綿密な連携に努める。
2	総務 清掃区域の適正化を図り、環境整備に努める。	6.5	71.0	22.6	0.0	2.81	B	2.94	B	・全校生徒による特別棟のワックスがけや舎外清掃を実施することができた。	・清掃計画については、見直しをもって立案する。また根本的な修繕の必要がある箇所について、事務室とも協議をしながら進める。
3	3年間を見据えた人権LHR計画の推進と、職員の指導力向上を目指す研修会を立案・実施する。	0.0	51.6	41.9	6.5	2.47	C	2.66	C	・人権HRに向けた拡大人権研修会の実施が十分でなかった。	・研修会を通じて、人権意識の高揚に努める。
4	HPを積極的に更新し、本校の情報発信の充実促進を行う。	6.5	74.2	19.4	0.0	2.91	B	2.94	B	・HPのシステムをおおむね積極的に更新することができた。	・本校の情報発信については、HPを中心に今後行う。認証システムを簡略化することにより、各学年、各部から発信できるシステムを構築する必要がある。
5	広報 学校案内・リーフレットの作成・配布を行い本校の魅力を発信させる。	16.1	77.4	6.5	0.0	3.16	B	3.00	B	・学校説明会、オープンハイスクール参加人数については、目標をクリアしたように思う。学校説明会を市民会館を使用したことで参加人数増加につながり、秋のオープンキャンパスで学校の様子をさらに知りたいということにつながり参加人数の結果として出たと思うが広報活動の動きが形となってあらわれにくいことがマイナスの結果に出ていると考えられる。	・学校案内、ポスターの作成については前年度から準備を行い、中学校訪問段階には今年度の案内等を配布できるようにする。
6	学校説明会・オープンハイスクールの参加人数確保のための広報活動を行う。	6.5	80.6	12.9	0.0	3.03	B	2.97	B		・中学校だけでなく、塾や公共機関等にも配布を行う必要がある。
7	学校教育目標に即した教育課程の編成および新教育課程を検討する。	9.7	83.9	6.5	0.0	3.16	B	2.91	B	・類型選択や科目選択の際に、ある程度の方向性がイメージできるよう選択科目群の見直しを行った。	・教育課程の編成については、よりよい教育課程の編成に向けて、今後も継続審議を行う。また、5クラスとなるため、授業の展開方法についても検討を行う。
8	教務 授業公開やアンケートを踏まえ、生徒の学力向上策を研究し、教師の授業力を高める。	6.5	77.4	16.1	0.0	3.06	B	2.69	C	・本年度は1学期に教員間での公開授業の実施、2学期に保護者への公開授業週間を実施できた。	・公開授業後の意見交換や実施時期などを見直し、授業の改善へつなげていく。
9	業務改善の一環として、出欠統計や成績処理など校務支援システムの効果的な活用を図る。	19.4	71.0	9.7	0.0	3.28	B	2.94	B	・校務支援システムの出欠入力や調査書等の作成もスムーズにできた。職員も操作に慣れ、業務の改善に繋がっている。	・校務支援システムの活用についてはある程度の限界を迎えつつあるため、教育用クラウドやデジタル採点システム等も含め、更なる業務の効率化を図っていく。
10	生徒支援 登校指導を全職員で行い生徒情報を共有することで、共通認識や理解に基づく一貫性のある指導を行う。	3.2	80.6	12.9	3.2	3.06	B	2.94	B	・生徒は全体的に落ち着いている分、特に共有する必要性がなくなってきているように思う。また、さらに、共有する内容について細かな部分が必要になってきているように感じる。	・登校指導については、教員の一貫性のある生徒支援の確立に向けて行われているものであるということを理解した上で指導にあたり、積極的に声を掛け、小さな事柄でも関係教員間でコミュニケーションを取り合い共有する必要がある。
11	生徒会活動・ホームルーム活動の活性化と充実のため、生徒会を中心とした学校行事の運営を行う。	22.6	67.7	9.7	0.0	3.38	A	3.22	B	・生徒会の現状を把握・理解したうえで教員が生徒会活動・ホームルーム活動に生徒が主体的に活動できる行事運営を目指しながら、生徒(生徒会)とともに学校行事の運営に関わっていただけである。	・生徒会活動に関しては、引き続き教員の支援のもと生徒(生徒会)が主体的に効率よく活動できる行事運営方法へ改革を推し進めていく。その為にも生徒会行事運営改革に際し、生徒会執行部専属の教員(部顧問)の配置が必要であると考えている。

学校評価（教職員 アンケート結果）②

資料-2(2)

<評価基準> 4・・・とてもそう思う 3・・・そう思う 2・・・あまりそう思わない 1・・・まったくそう思わない
 <評価> A・・・3.3以上 B・・・2.8以上 C・・・2.3以上 D・・・2.3未満

		割合 (%)				令和7年度		令和6年度		結果分析	改善方策	
		評価4	評価3	評価2	評価1	評価平均	評価	評価平均	評価			
12	保健	講演会等の健康教育、個別の保健指導を通じて、個々の健康課題に対応できる能力の向上を目指す。	16.1	67.7	16.1	0.0	3.28	B	3.15	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講演・講話、保健だよりを通して、生徒が心身の健康についての知識を得、健康や安全について考える機会を設けることができた。 ・教員、生徒の理解・協力のもと、生徒保健委員が中心となって熱中症対策及び感染症対策を継続して行うことができた。 ・カウンセラー、学年団、関係職員、状況に応じて外部機関と連携し、生徒や保護者の心身のサポートに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの作成については、各生徒保健委員が伝えたい健康に関する情報のテーマが重複しないよう、また発行する時期と関連のある内容を選ばせ発信したい。 ・各種感染症が季節を問わず広がる現状にあるため、換気、手洗い実践の定期的な周知を継続し、職員も含めた感染症対策の意識を定着させる必要がある。 ・引き続き関係部署で連携をとりながら、生徒、保護者の悩みに寄り添ったカウンセリングが提供できることを目指したい。
13		生徒保健委員による保健だよりの発行、熱中症・感染症予防等の働きかけを通して、生徒の健康に関する意識を高める。	25.8	71.0	3.2	0.0	3.53	A	3.34	A		
14		生徒個々の心身の健康問題に応じて、学年・キャンパスカウンセラーと連携し対応に努める。	25.8	71.0	3.2	0.0	3.56	A	3.40	A		
15	キャリア支援	学部学科説明会（1年）大学模擬授業（2年）大学説明会（3年）などの進路行事を企画・実施する。	29.0	64.5	6.5	0.0	3.59	A	3.10	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大学説明会などの進路行事は、予定通り実施できた。新たに7月に医療看護説明会を企画実施することができた。 ・学年と連携を取り、最新の大学受験の情報の提示や集会を通じて生徒に受験環境についての情報を提供することができた。 ・「進路のてびき」は、内容を刷新し、従来の本校の入試データ、最新の入試動向だけでなく、受験を経験した本校生の生の声やより実用的なデータを盛り込むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会の意図を明確にし、目的意識をもって生徒たちが主体的に参加できるような準備が必要である。 ・進路通信の発行をもう少し増やしたい。生徒や保護者のニーズに対応できるもの作成し、情報を提供していきたいと考える。 ・昨年と同様に、保護者だけでなく、生徒自身がより活用できるような「進路のてびき」を作成したい。また、「進路のてびき」の活用方法についても提案していきたいと考える。
16		新課程入試やそれに伴う受験環境の変化に対応できるよう情報収集し、生徒・保護者に提供する。	12.9	71.0	16.1	0.0	3.38	A	2.88	B		
17		本校の実情に合った「進路のてびき」を作成し、また生徒・保護者の進路説明会などで学年と連携を図る。	22.6	71.0	6.5	0.0	3.59	A	3.02	B		
18		探究における授業計画の見直しを図り、各活動における目的を明確化する。	3.2	74.2	22.6	0.0	3.28	B	2.83	B		
19		探究における協働学習を効果的にするために、ICTの積極的な活用を促す。	6.5	83.9	9.7	0.0	3.47	A	3.12	B		
20	探究活動を通じて自分の在り方を見つめ直す機会を与え、進路意識の向上につなげる。	6.5	41.9	45.2	6.5	3.03	B	2.83	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議や類型推進委員会を通して、活動の目的を伝えることができた。各教員が納得したうえで指導にあたれたことが、評価平均改善の要因となったように思う。 ・昨年度同様、Teamsで資料を配信・提出する方法を多用した。しかし、実際には紙媒体で活動する時期も少なからずあったため、活動ごとに使い分けことでICTの活用が適切になされた印象を持たれたのかもしれない。 ・生徒、教員ともに、探究活動と進路を結びつけることができなかった。特に、類型クラス以外の一般クラスでは、活動する意義への理解を徹底できなかったように思う。 		

学校評価（教職員 アンケート結果）③

資料-2(3)

<評価基準> 4・・・とてもそう思う 3・・・そう思う 2・・・あまりそう思わない 1・・・まったくそう思わない
 <評価> A・・・3.3以上 B・・・2.8以上 C・・・2.3以上 D・・・2.3未満

		割合 (%)				令和7年度		令和6年度		結果分析	改善方策	
		評価4	評価3	評価2	評価1	評価平均	評価	評価平均	評価			
21	第1学年	【学習・進路】基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学ぶ姿勢を育てる。	12.9	87.1	0.0	0.0	3.69	A	3.03	B	全体的に反応はよく、元気もあり、いろいろな問いかけに対して耳を傾けられる生徒の数は比較的多いので、今後の成長が楽しみである。挨拶に関しては、非常によくできていると思われる。まだまだ精神的に未熟で成長が必要であるため、自らのあり様を常に問い続けているが、それが形になっているか、なってくるかは今後も継続した取り組みが必要である。	学習等では、次年度に向けて上位層を伸ばすことと、下位層へのこ入れ、特に下位層については、提出物等の常態的な遅れと小テストの不合格を繰り返す者が一定数存在するので、日常の行動様式・思考様式から指導が必要である。あと1年余りで成人になる生徒が出てくるので、より良き市民として成長を促していくために、多角的なアプローチが必要である。生徒人数が少ないことが、結果的に個々の生徒に目が届きやすくなっているため、変わらず手厚い指導を継続していきたい。
22		【生指・保健】学校行事やクラス活動、部活動を通じて心身の健康を図る。	9.7	87.1	3.2	0.0	3.66	A	3.09	B		
23		【生指・生活】基本的生活習慣を身に付け、信頼できる人間関係を育ませる。	9.7	87.1	3.2	0.0	3.69	A	3.09	B		
24	第2学年	【学習・進路】進路意識を高め、自律的な学習習慣を確立させる。	6.5	80.6	12.9	0.0	3.59	A	3.00	B	中堅学年としての自覚や他者への配慮などを含め、何事も自分事として捉える意識は学校内での行事や修学旅行などを通して育まれていると感じる。特に修学旅行では時間やルールを順守し、他者を慮る行動が見られた。進路意識の高まりについては、意識は高まっているが、それを実現するための努力が不足している生徒が多い。部活動に対する熱量と勉強にかけられる時間と熱量との間に大きな乖離がみられる。	進路意識については2学年の3学期に第一志望校を考えさせ、3学年ではスタート時点からそれを意識した指導を行っている。勉強については「受け身」で「欲のない」生徒が多いため、こちらの働きかけ次第である。ある種の「危機感」を教員同士で共有していく必要がある。人間的な成長については申し分のないレベルに到達しつつあると思われる。部活動については何も言わなくても相当な熱量をかけて取り組んでいる。したがって教員がテコ入れをするのは勉強面のみだと思っている。
25		【生徒指導】中堅学年としての自覚を持ち、学習と部活動・生徒会活動の両立に励ませる。	12.9	77.4	9.7	0.0	3.72	A	3.09	B		
26		【生指・生活】集団の中で自らの役割を自覚し、他者に配慮できる姿勢を育てる。	9.7	87.1	3.2	0.0	3.78	A	3.03	B		
27	第3学年	【学習・進路】進路実現に向けて、確かな学力を身に付けさせる。	16.1	80.6	3.2	0.0	3.88	A	3.06	B	1年次より「物事を自分事として常に捉える」ことを意識させ続けたことが、全体的にポイントの上昇につながったといえる。「最高学年としての模範的行動」については、文化祭や体育会等、元々の生徒のキャパシティ以上のものが発揮されたようである。「進路実現」については教員と生徒がよりよく協力し、各自が主体的に目的意識を持って望めたように見られた。	最近の本校生の特徴として、受身で、視野が狭く、キャパシティが足りず、全体を見ることが苦手という傾向がある。入学時の本学年は現在の下級生と比べても大人しく若い生徒が多かった。三年間の歩みにより少しずつ改善されてきたが今後もやはり継続して「主体的に行動を起こすことができる生徒」を増やしていく必要がある。少しずつ主体性を育む教員側の取り組みも必要である。
28		【生徒指導】最高学年としての意識を持ち、下級生の模範とならせる。	9.7	83.9	6.5	0.0	3.81	A	2.97	C		
29		【生指・生活】社会の一員としての自覚と責任を持たせる。	9.7	80.6	9.7	0.0	3.81	A	3.03	B		
30	学校運営	【組織体制】本校は、教育目標の達成に向け、各部署の連携や情報の共有に努めるなど組織的な学校運営を推進している。	3.2	74.2	19.4	3.2	3.63	A	2.66	C	・組織体制への評価平均は、前年度から大きく向上した。組織改編により各部署の役割が明確化され、学校運営における連携や情報共有が進んだことが成果として表れたといえる。 ・健康で明るく風通しの良い職場づくりが着実に進んでいる。教職員の健康面への配慮や、ハラスメント防止に対する意識の高まりが評価向上につながったと考えられる。 ・地域連携も非常に高い水準である。探究活動やふるさと貢献活動、部活動を通じて地域交流が活発化し、地域から信頼される学校運営が進んでいることが評価につながっている。	・連携や共有の在り方については引き続き課題意識も見られるため、今後もPDCAを意識した取組を通して、より実効性のある組織運営を推進していく必要がある。 今後も、職員室の打合せスペース整備など職場環境の改善を継続し、安心して働ける環境づくりを一層推進していく。 ・次年度は、兵庫県版コミュニティ・スクール実施の年であり、地域連携の在り方について検討を進めていきたい。
31		【環境衛生】本校は、ハラスメントのない健康で明るく風通しの良い職場づくりを推進している。	3.2	83.9	9.7	3.2	3.75	A	2.84	B		
32		【地域連携】本校は、教育活動を通じて地域社会に貢献し、地域から信頼される進学校としての学校運営を推進している。	9.7	71.0	19.4	0.0	3.81	A	2.91	B		